

夢を実現へと導く
強い意思と勇気



YKK株式会社
代表取締役会長CEO

吉田 忠裕 氏
よしだ ただひろ

「はやぶさが希望を運び空に行く」。これは、当社の社内報に載った2011年の世相を詠んだ社員川柳の一句です。

昨年は、3月11日に発生した東日本大震災で日本全体が痛みを受けましたが、その中であつて小惑星探査機『はやぶさ』の快挙は、地球に帰還して2年が経過した今でも私たちに希望と勇気を与えています。冒頭の川柳からも「共に苦難を乗り越えよう」という強い願いを感じました。

先日、『はやぶさ』のミッションを成功に導いたプロジェクトリーダーのJAXA（独立行政法人宇宙航空研究開発機構）川口淳一郎教授と対談を行いました。その際、印象に残ったのは「幾多の難関を乗り越えたのは研究者たちの運と意地でした」という言葉です。科学技術の最先端を牽引する指導者から発せられたのを意外に感じましたが、その意味するところは、いろいろなところに転がっている運を呼び寄せて解決の糸口を見つける能力と、どれほどの困難に遭遇しようが意地（強い意思）を持って対峙することが研究者には求められるということでした。また、科学の世界で

は、思わぬミスや失敗から大発見が生まれた事例は数多くあるそうで、その積み重ねが成功への欲求をより強めたそうです。

YKKグループには、社員一人ひとりが日々の行動指針としている言葉の一つに「失敗しても成功せよ／信じて任せろ」があります。

私どもはこの考え方のもと、多くの若い社員に思い切つて仕事を任せてきました。『はやぶさ』のミッションに限らず、夢を実現するには、スタッフ間の目的共有とそれを達成しようとする激しい情熱、目標に向かって挑戦するための勇気が必要であることを、川口教授との対談で再認識しました。

昨年6月に、YKK、YKK AP共に新社長が誕生し、私がそれぞれの会長となり、新しい体制がスタートしました。2012年も厳しい事業環境が続くと思われませんが、どのような変化にあつても軸をぶらさずに、自らのミッション達成のため、希望と勇気を持って着実に歩を進めていきたいと思えます。